

越谷市のごみ処理の現状について

令和2年2月

環境経済部 リサイクルプラザ

目 次

1. 越谷市のごみ排出量の現況（H30年度実績）
2. 他市との比較（ごみ減量・リサイクル等について）
3. 第4次循環型社会形成推進計画の概要説明及び目標値と越谷市数値との比較
4. 越谷市の現行計画の進捗状況
5. 市が実施している施策

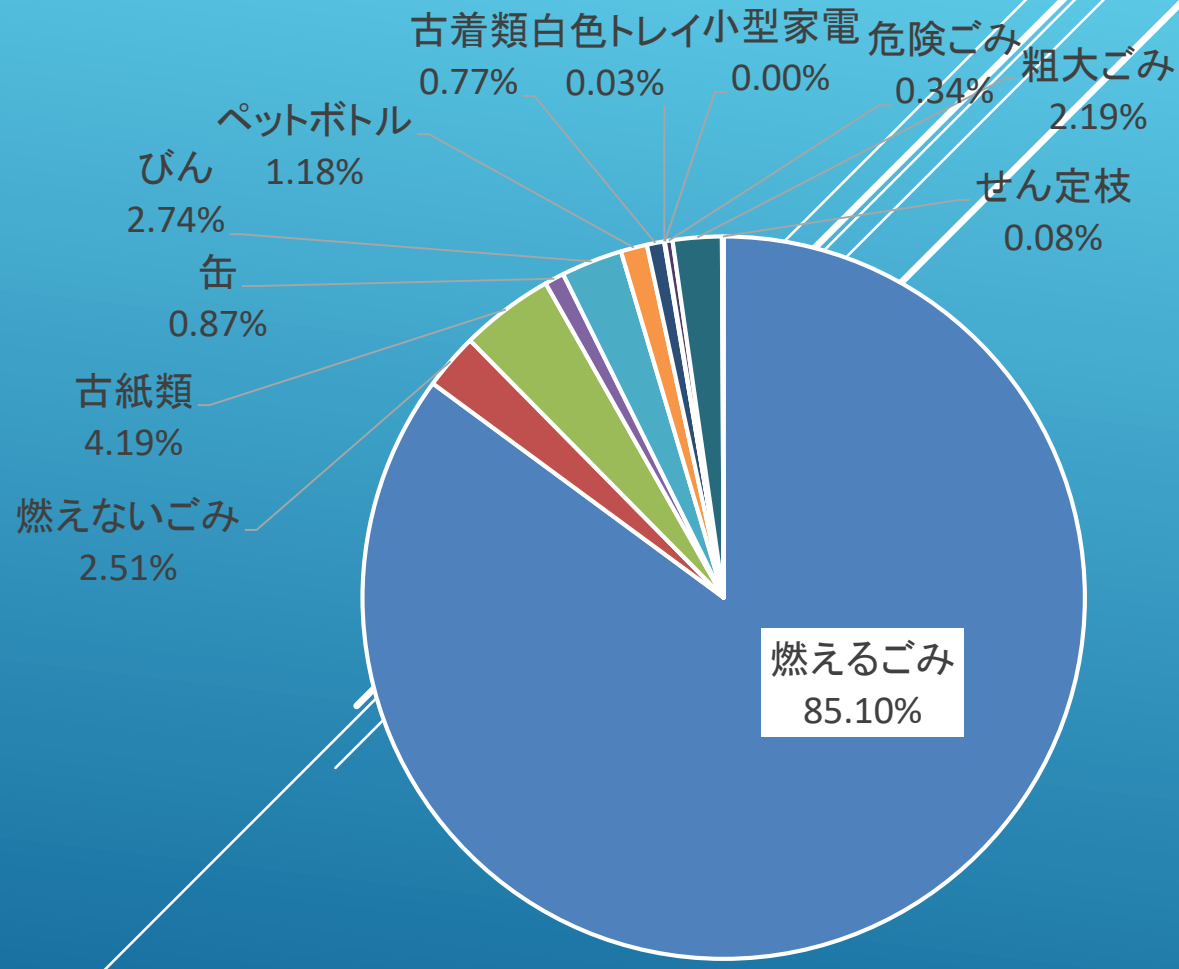
1. 越谷市のごみ排出量の現況

(平成30年度実績)

家庭系ごみ・資源の年間排出量

品目	排出量 (t/年)	比率 (%)
燃えるごみ	62,067.20	85.10
燃えないごみ	1,831.17	2.51
古紙類	3,053.30	4.19
缶	633.68	0.87
びん	2,000.33	2.74
ペットボトル	857.49	1.18
古着類	563.50	0.77
白色トレイ	24.55	0.03
小型家電	1.55	0.00
危険ごみ	248.01	0.34
粗大ごみ	1,594.38	2.19
せん定枝	57.30	0.08
合計	72,932.46	100.00

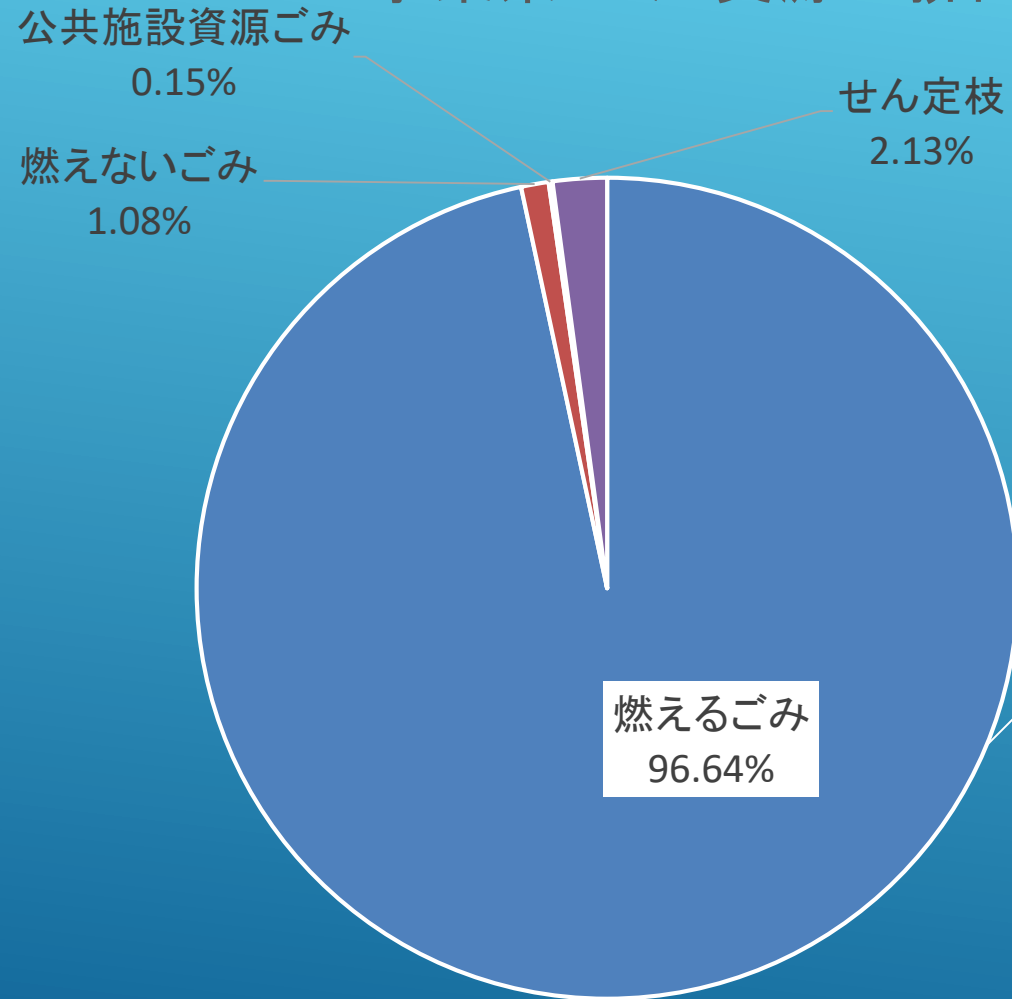
家庭系ごみ・資源の排出割合



事業系ごみ・資源の年間排出量

品目	排出量 (t /年)	比率 (%)
燃えるごみ	25,258.75	96.64
燃えないごみ	283.56	1.08
公共施設資源ごみ	39.69	0.15
せん定枝	556.21	2.13
合計	26,138.21	100.00

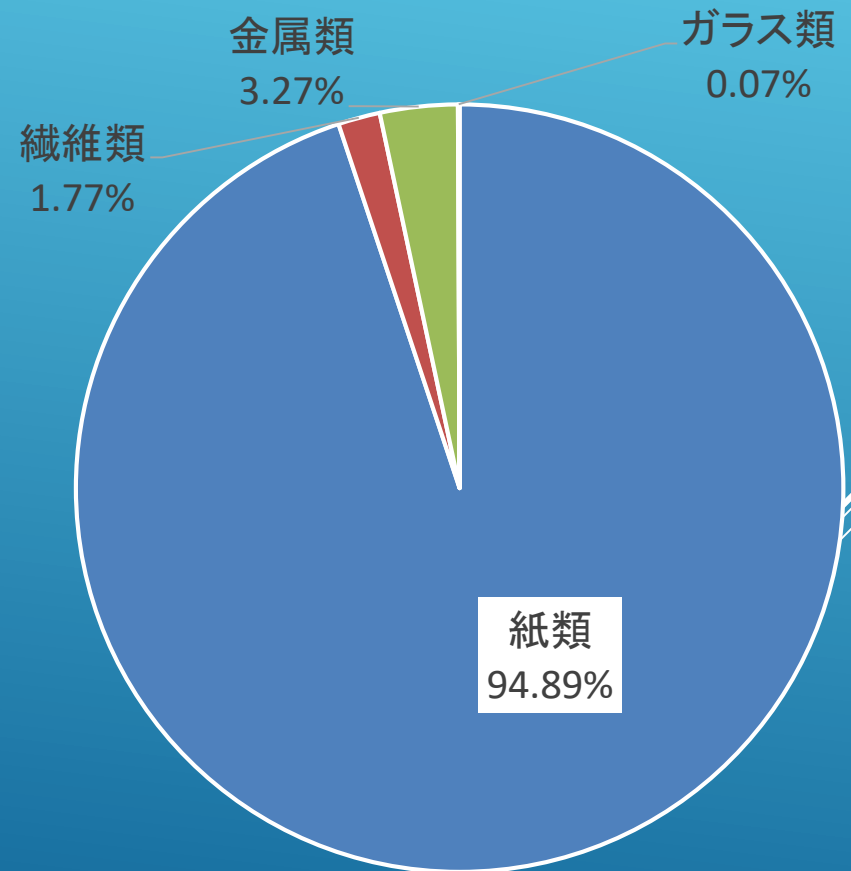
事業系ごみ・資源の排出割合



集団資源回収の実績

品目	資源回収量 (t/年)	比率 (%)
紙類 (古紙)	6,246.19	94.89
繊維類 (古着)	116.40	1.77
金属類 (缶)	215.36	3.27
ガラス類 (びん)	4.56	0.07
合計	6,582.51	100.00

集団資源回収の回収割合



1人1日あたりのごみの排出量

区分	年間排出量 (t)	人口 (人)	1人1日あたりの 排出量 (g/人/日)
家庭系ごみ	72,932.46	342,401	584
事業系ごみ	26,138.21		209
合計 (全体)	99,070.67		793

リサイクル率

区分		年間排出量 (t)
資源化量	集団資源回収量	6582.51
	行政による資源化量	11842.15
ごみ排出量		99,070.67
リサイクル率	$\text{資源化量} / (\text{集団資源回収量} + \text{ごみ排出量}) \times 100$	17.4%

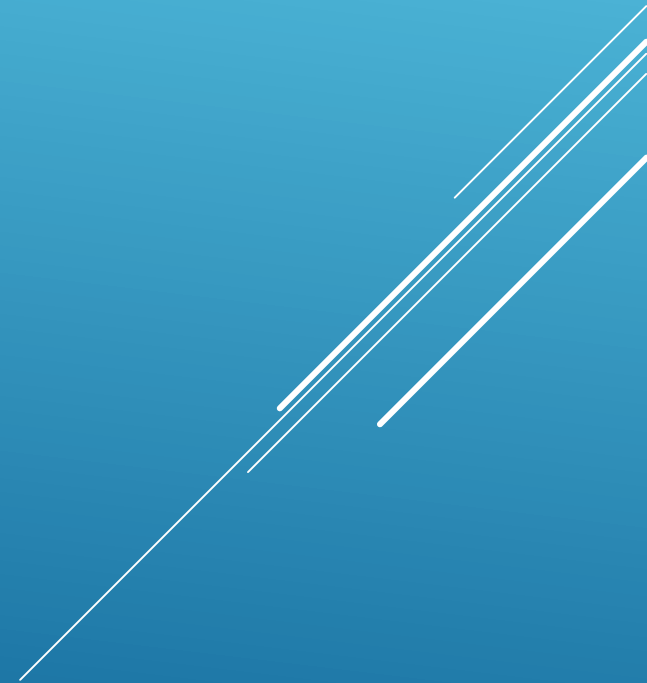
最終処分量

区分	年間発生量 (t)
焼却残さ	6,842.94
焼却外残さ	877.10
最終処分量 (焼却残さ + 焼却外残さ)	7,720.04

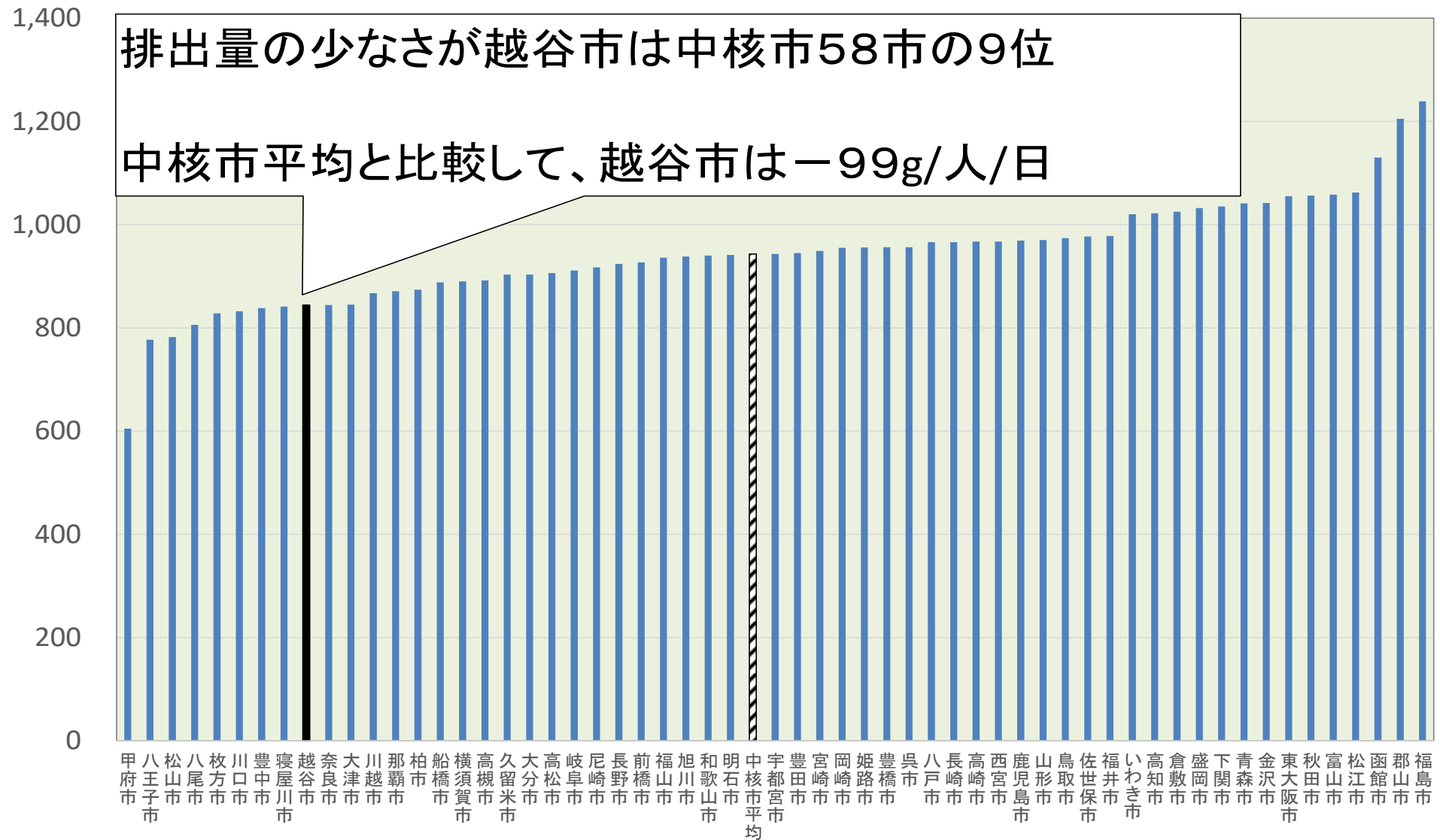
2. 他市との比較

(ごみ減量・リサイクル率について)

中核市との比較

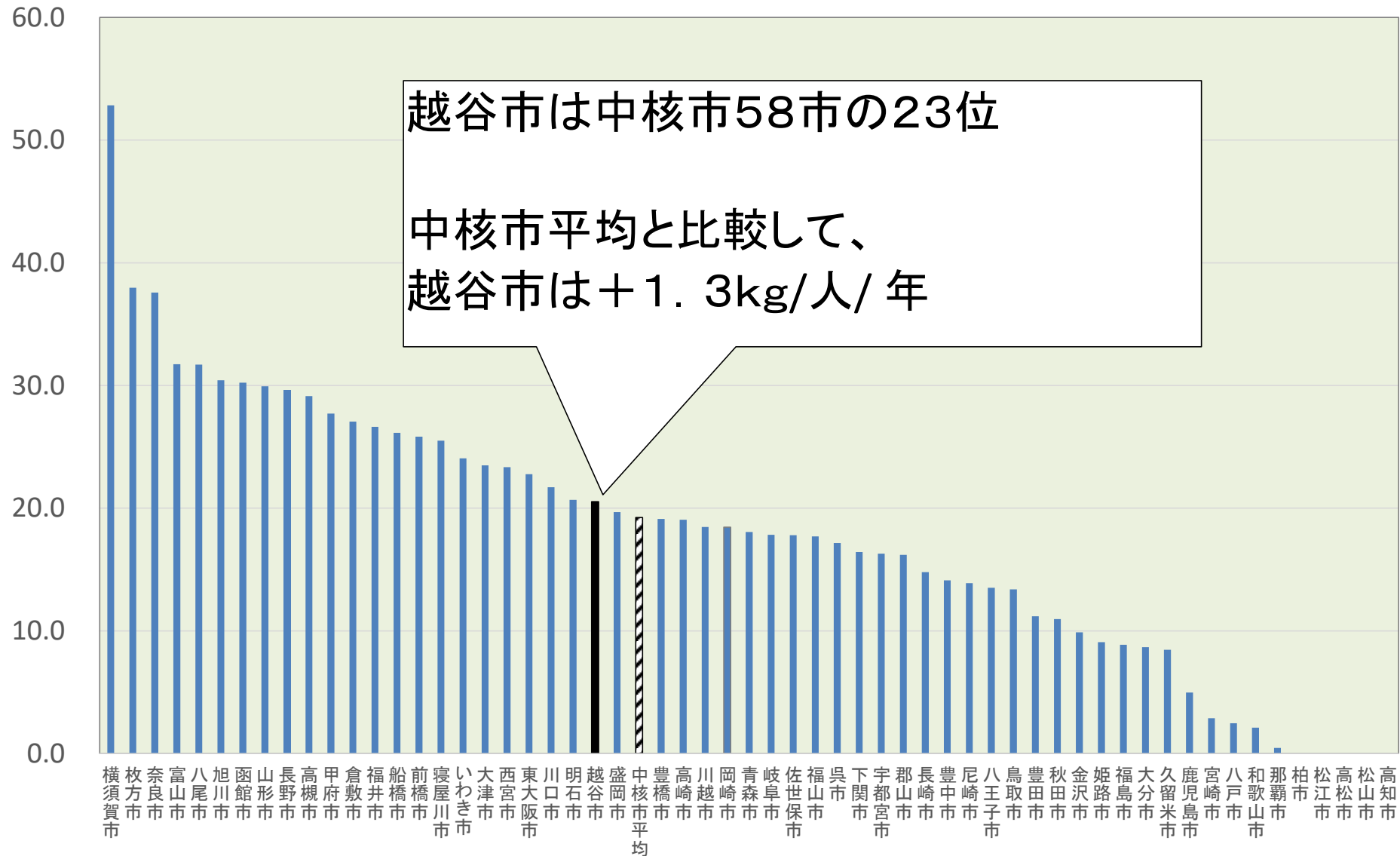


(1) 中核市 1人1日あたりのごみ排出量 (単位: g/人/日)

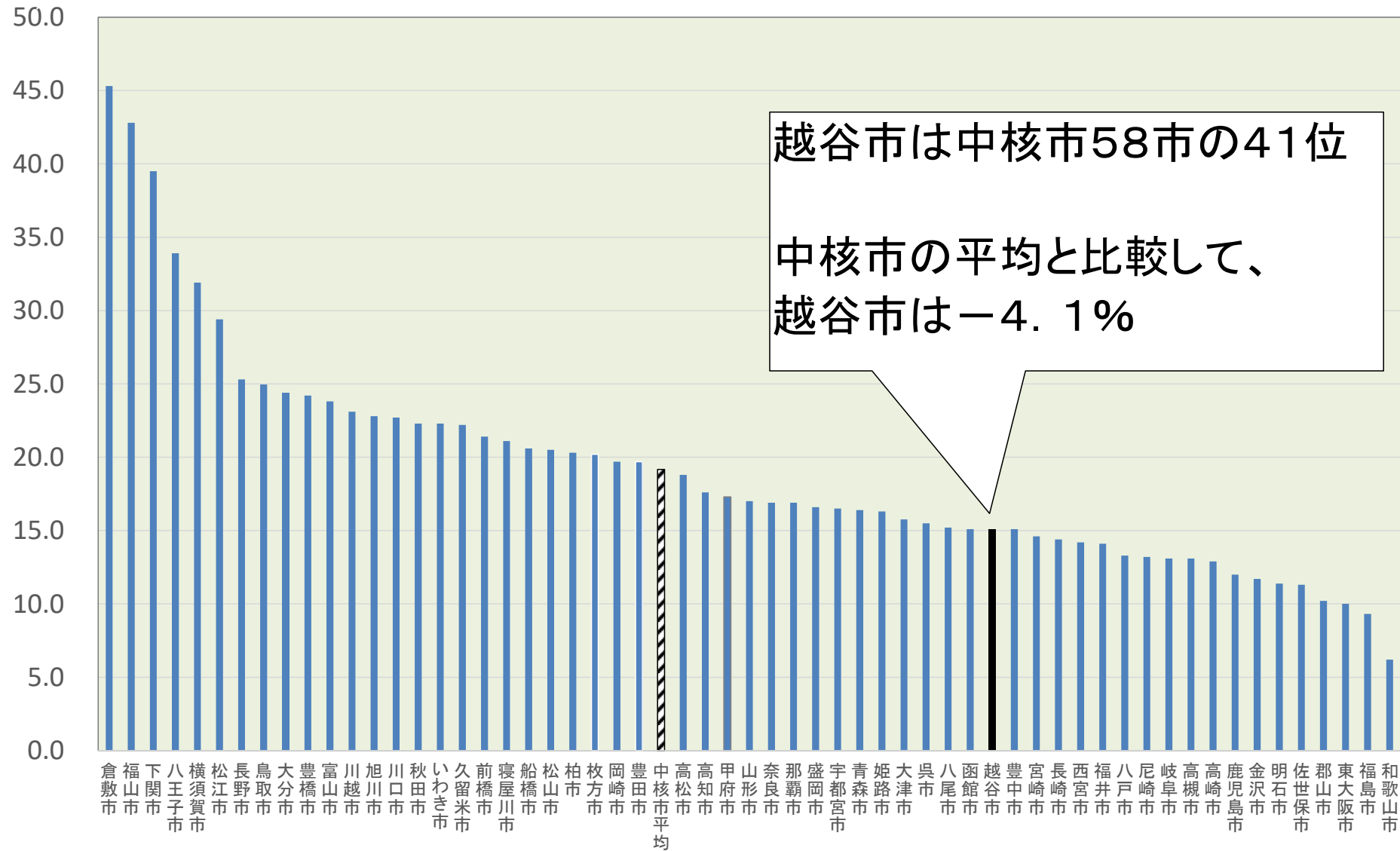


出典: 「都市要覧」 (2019年3月中核市市長会) に一部加筆修正

(2) 中核市 1 人年間集団資源回収量 (単位 ; k g / 人 ・ 年)



(3) 中核市のリサイクル率 (単位; %)

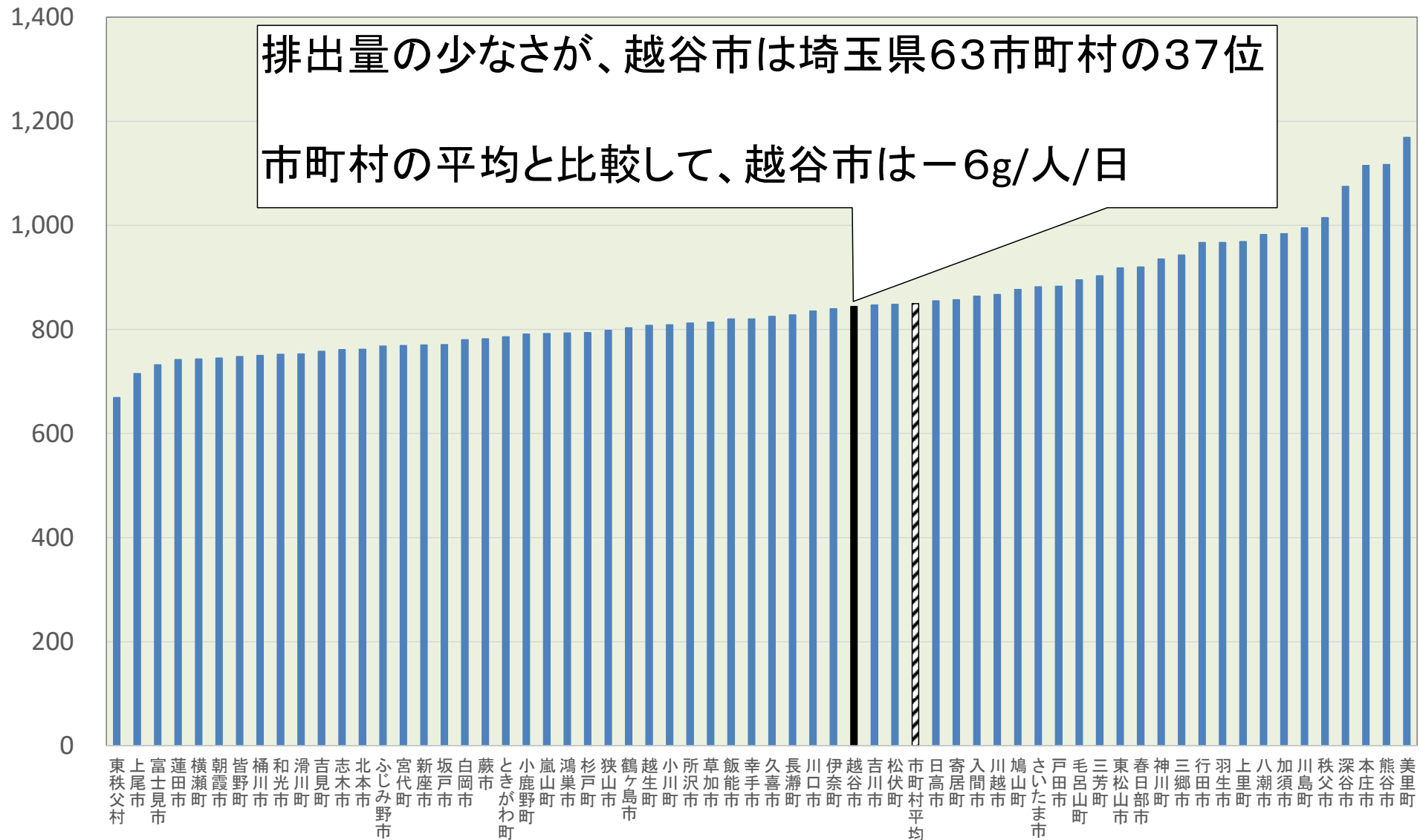


出典：「都市要覧」（2019年3月中核市市長会）に一部加筆修正

2. 他市との比較（ごみ減量・リサイクル率について）

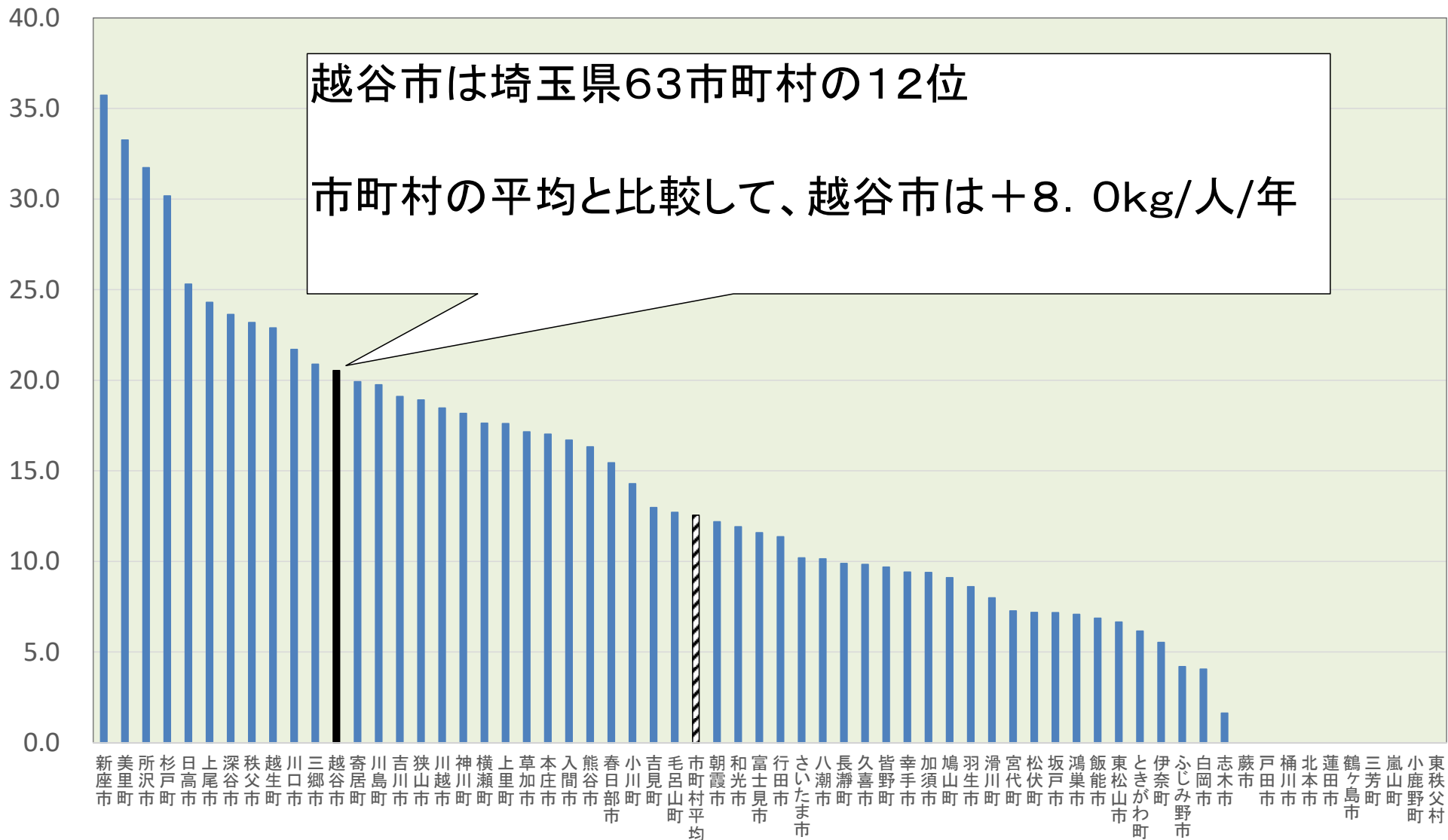
埼玉県内他市町村 との比較

(1) 1人1日あたりのごみ排出量 (単位; g/人/日)

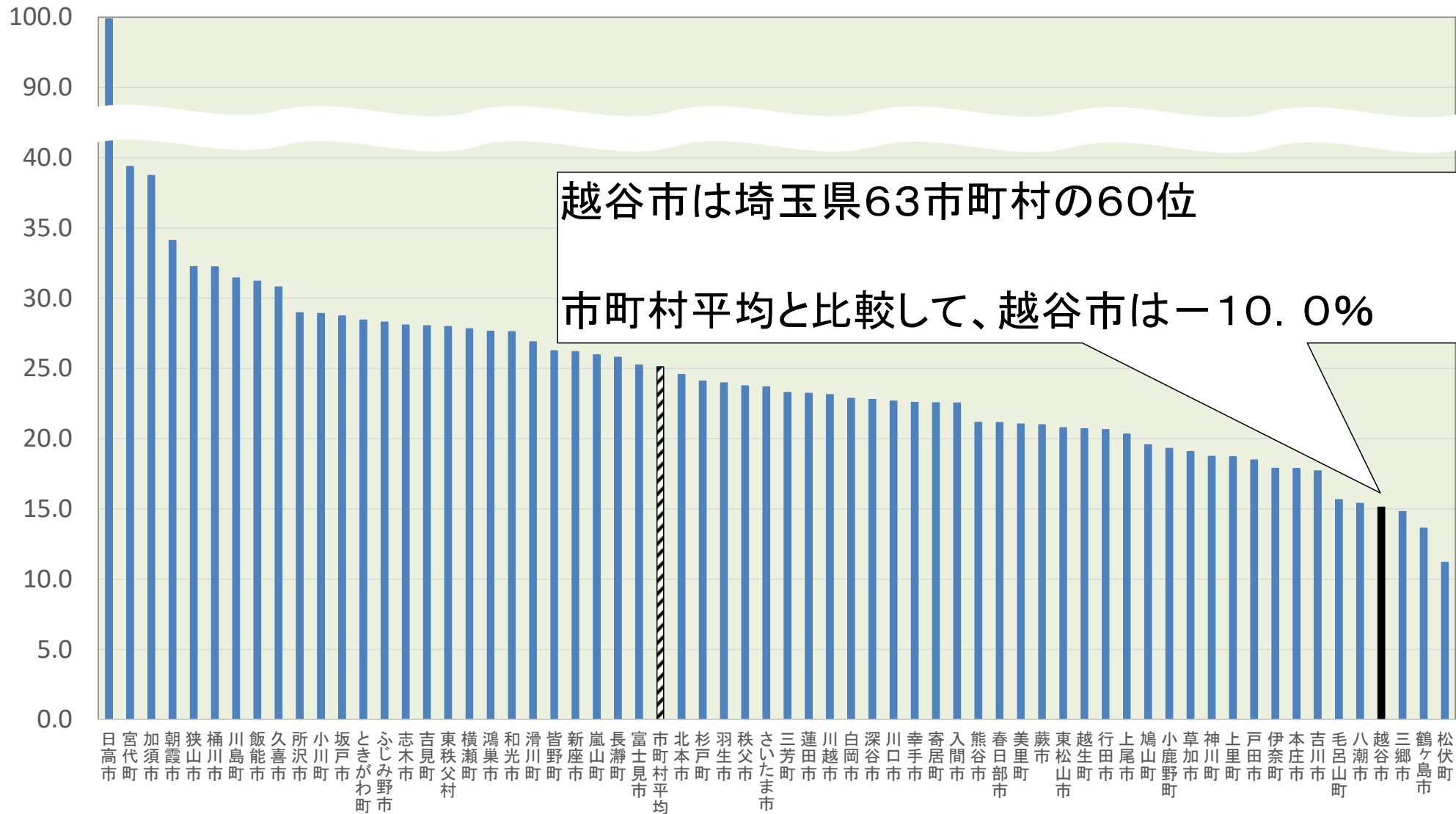


出典: 「一般廃棄物処理事業の概況」 ~平成29年度実績~に一部加筆・修正

(2) 1人年間集団資源回収量 (単位; kg/人/年)



(3) リサイクル率 (単位; %)

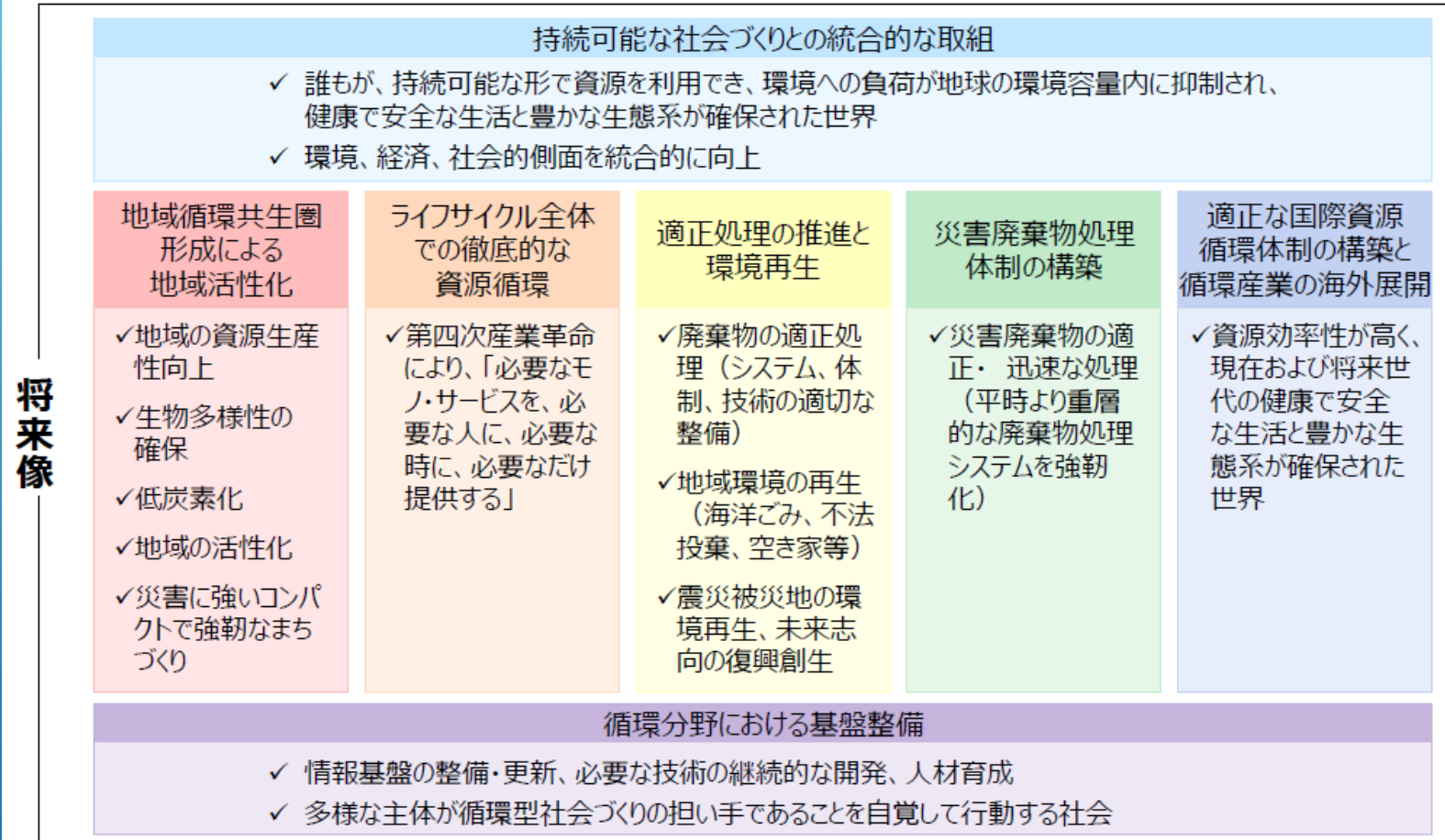


出典：「一般廃棄物処理事業の概況」～平成29年度実績～に一部加筆・修正

3. 第4次循環型社会形成推進計画

概要

第四次循環型社会形成推進基本計画の概要



目標値

	2000年度	2015年度	2025年度目標
資源生産性（万円/トン）	24	38	49 （+102%）
入口側の循環利用率（%）	10	16	18 （+8ポイント）
出口側の循環利用率（%）	36	44	47 （+11ポイント）
最終処分量（百万トン）	57	14	13 （▲77%）

（ ）内は2000年度比

第四次循環型社会形成推進基本計画の概要

持続可能な社会づくりとの統合的な取組

- 地域循環共生圏の形成
- シェアリング等の2 Rビジネスの促進、評価
- 家庭系食品ロス半減に向けた国民運動
- 高齢化社会に対応した廃棄物処理体制
- 未利用間伐材等のエネルギー源としての活用
- 廃棄物エネルギーの徹底活用
- マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策
- 災害廃棄物処理事業の円滑化・効率化の推進
- 廃棄物・リサイクル分野のインフラの国際展開

国の取組

地域循環共生圏形成による地域活性化

- 地域循環共生圏の形成
 - ・課題の掘り起こし
 - ・実現可能性調査への支援
- コンパクトで強靱なまちづくり
- バイオマスの地域内での利活用

ライフサイクル全体での徹底的な資源循環

- 開発設計段階での省資源化等の普及促進
- シェアリング等の2 Rビジネスの促進、評価
- 素材別の取組等
 - ・プラスチック戦略
 - ・バイオマス
 - ・金属(都市鉱山の活用)
 - ・土石・建設材料
 - ・太陽光発電設備
 - ・おむつリサイクル

適正処理の推進と環境再生

- 適正処理
 - ・安定的・効率的な処理体制
 - ・地域での新たな価値創出に資する処理施設
 - ・環境産業全体の健全化・振興
- 環境再生
 - ・マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策
 - ・空き家・空き店舗対策
- 東日本大震災からの環境再生

災害廃棄物処理体制の構築

- 自治体
 - ・災害廃棄物処理計画
 - ・国民へ情報発信、コミュニケーション
- 地域
 - ・地域ブロック協議会
 - ・共同訓練、人材交流の場、セミナーの開催
- 全国
 - ・D.Waste-Netの体制強化
 - ・災害時に拠点となる廃棄物処理施設
 - ・IT等最新技術の活用

適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開

- 国際資源循環
 - ・国内外で発生した二次資源を日本の環境先進技術を活かし適正にリサイクル
 - ・アジア・太平洋3 R推進フォーラム等を通じて、情報共有等を推進
- 海外展開
 - ・我が国の質の高い環境インフラを制度・システム・技術等のパッケージとして海外展開
 - ・災害廃棄物対策ノウハウの提供、被災国支援

循環分野における基盤整備

- 電子マニフェストを含む情報の活用
- 技術開発等(廃棄物分野のIT活用)
- 人材育成、普及啓発等(Re-Styleキャンペーン)

取り組みの進展に関する指標、目標

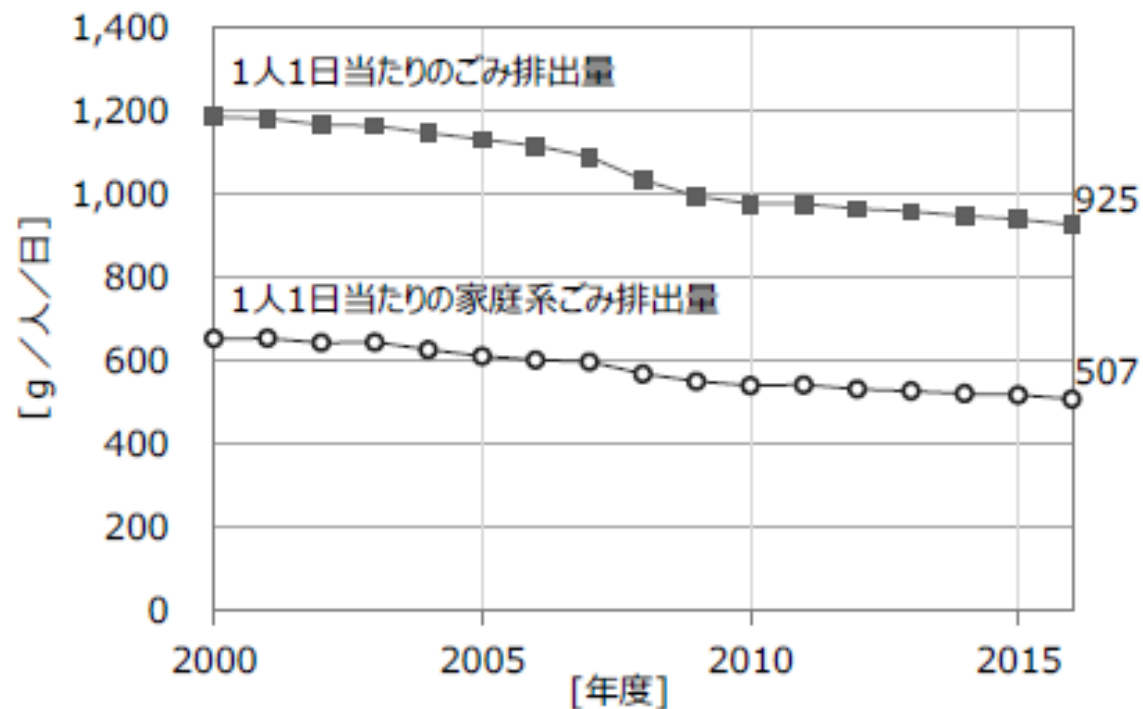
1人1日当たりのごみ排出量

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量

2025年度目標：

[1人1日当たりのごみ排出量] 約850 g/人/日

[1人1日当たりの家庭系ごみ排出量] 約440 g/人/日



出典：環境省「日本の廃棄物処理」より作成

3. 第4次循環型社会形成推進計画

目標値と越谷市数値との比較

1人1日あたりのごみ排出量

越谷市現況
(H29年度(2017年度)実績)

第4次循環型社会形成推進計画
2025年度目標

844g/人/日

約850g/人/日

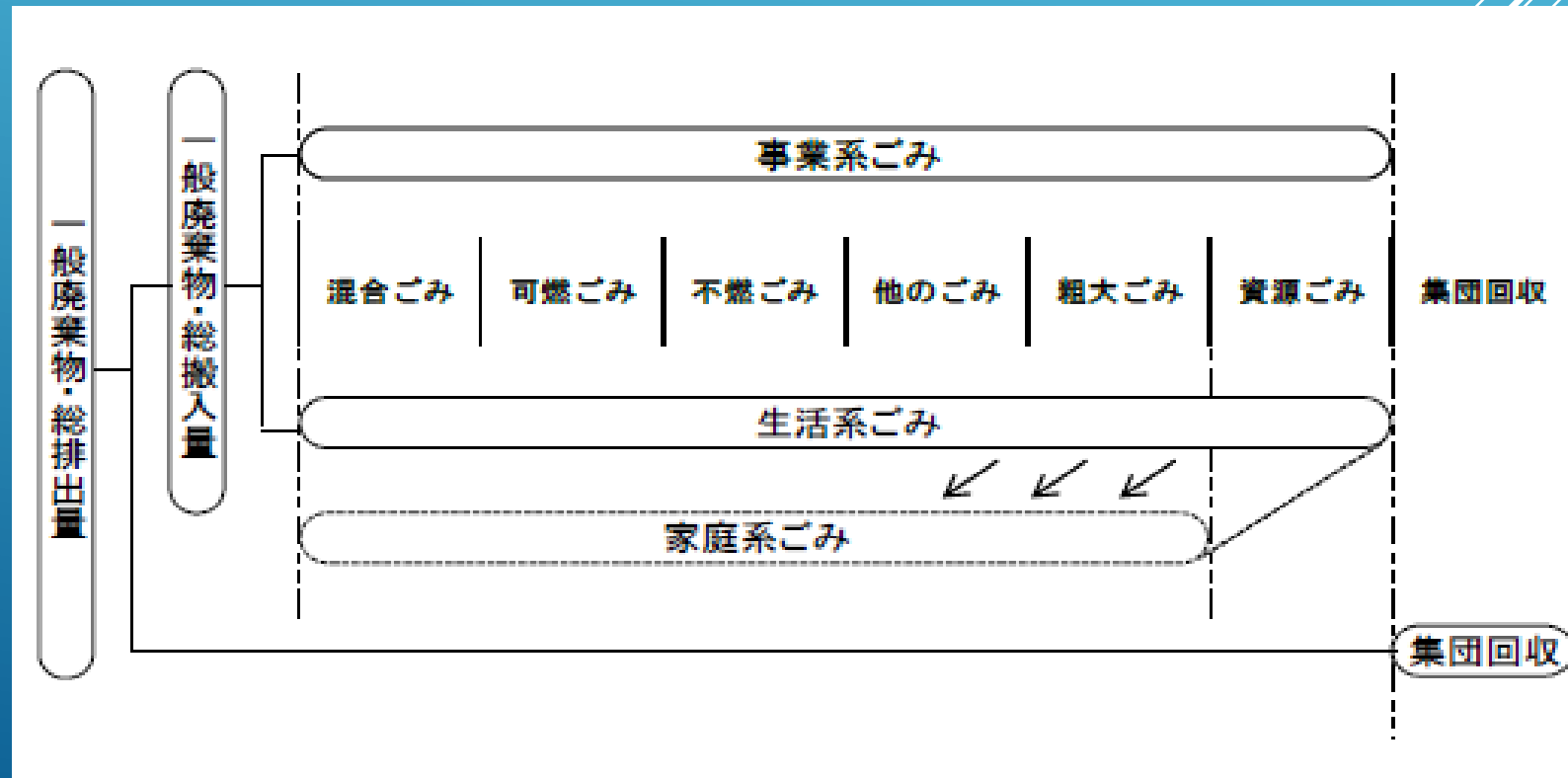
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量

越谷市現況
(H29年度(2017年度)実績)

第4次循環型社会形成推進計画
2025年度目標

528g/人/日

約440g/人/日



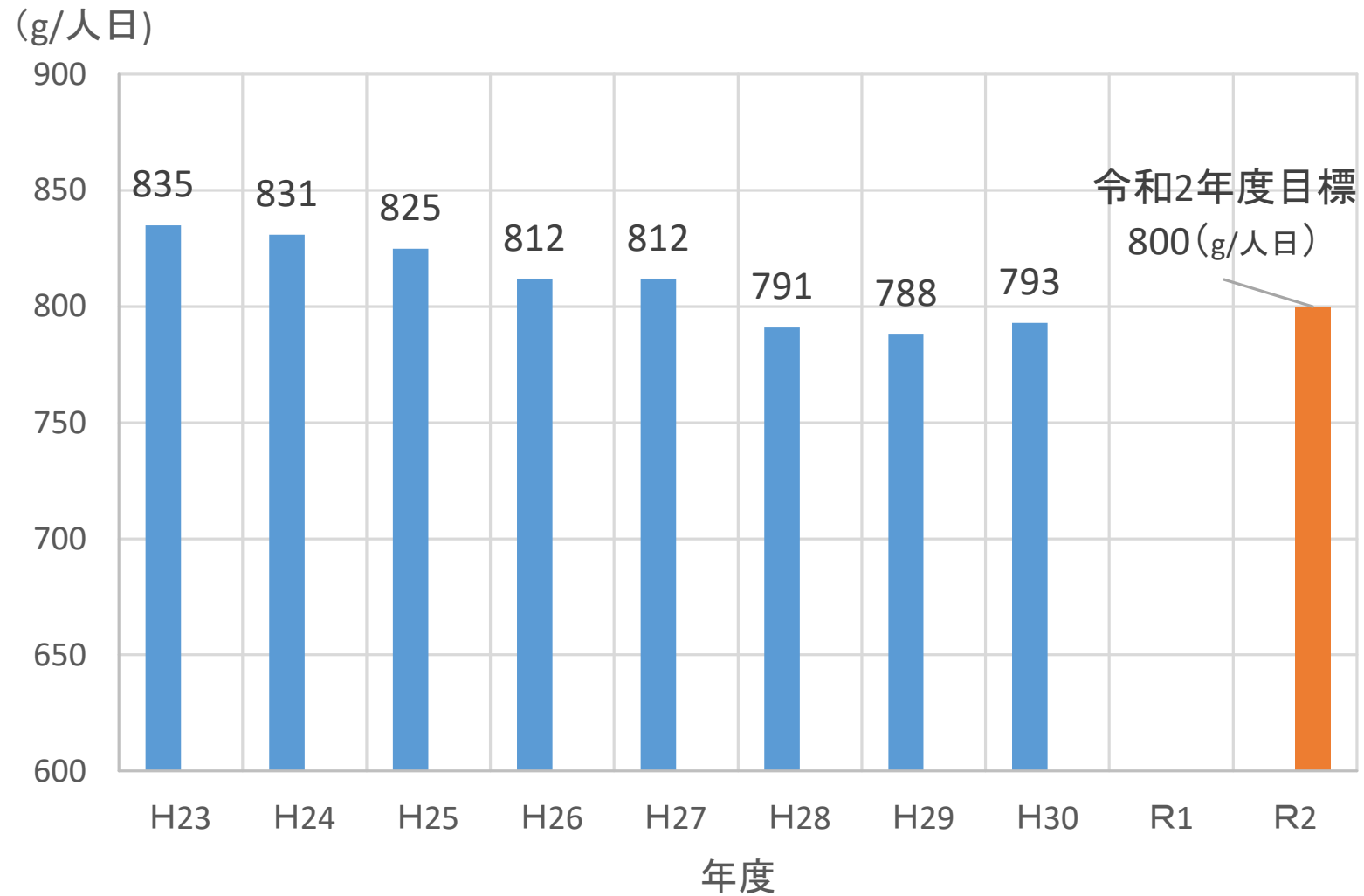
4. 越谷市の現行計画の進捗状況



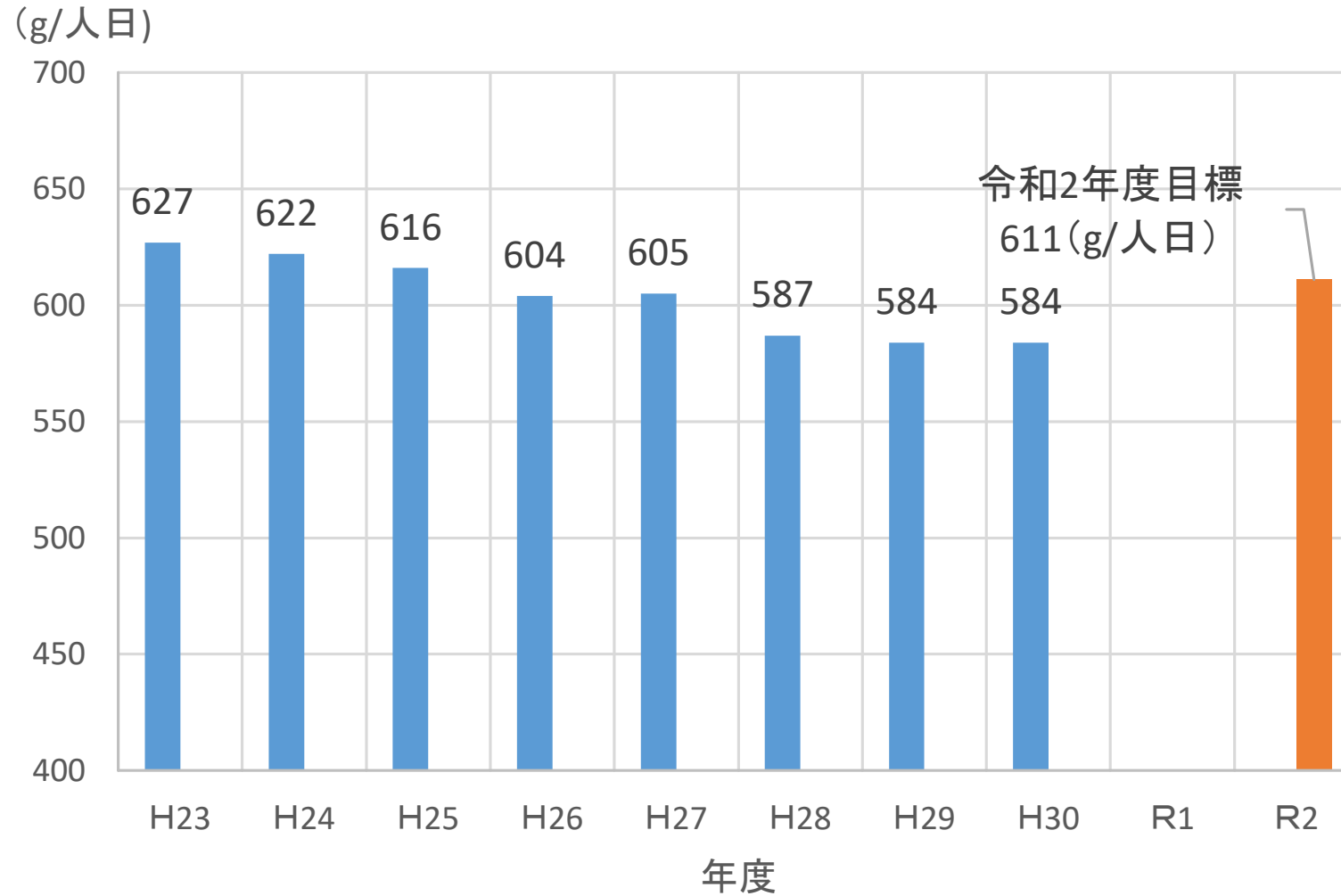
4. 越谷市の現行計画の進捗状況

目標 1 ごみ排出量の削減目標

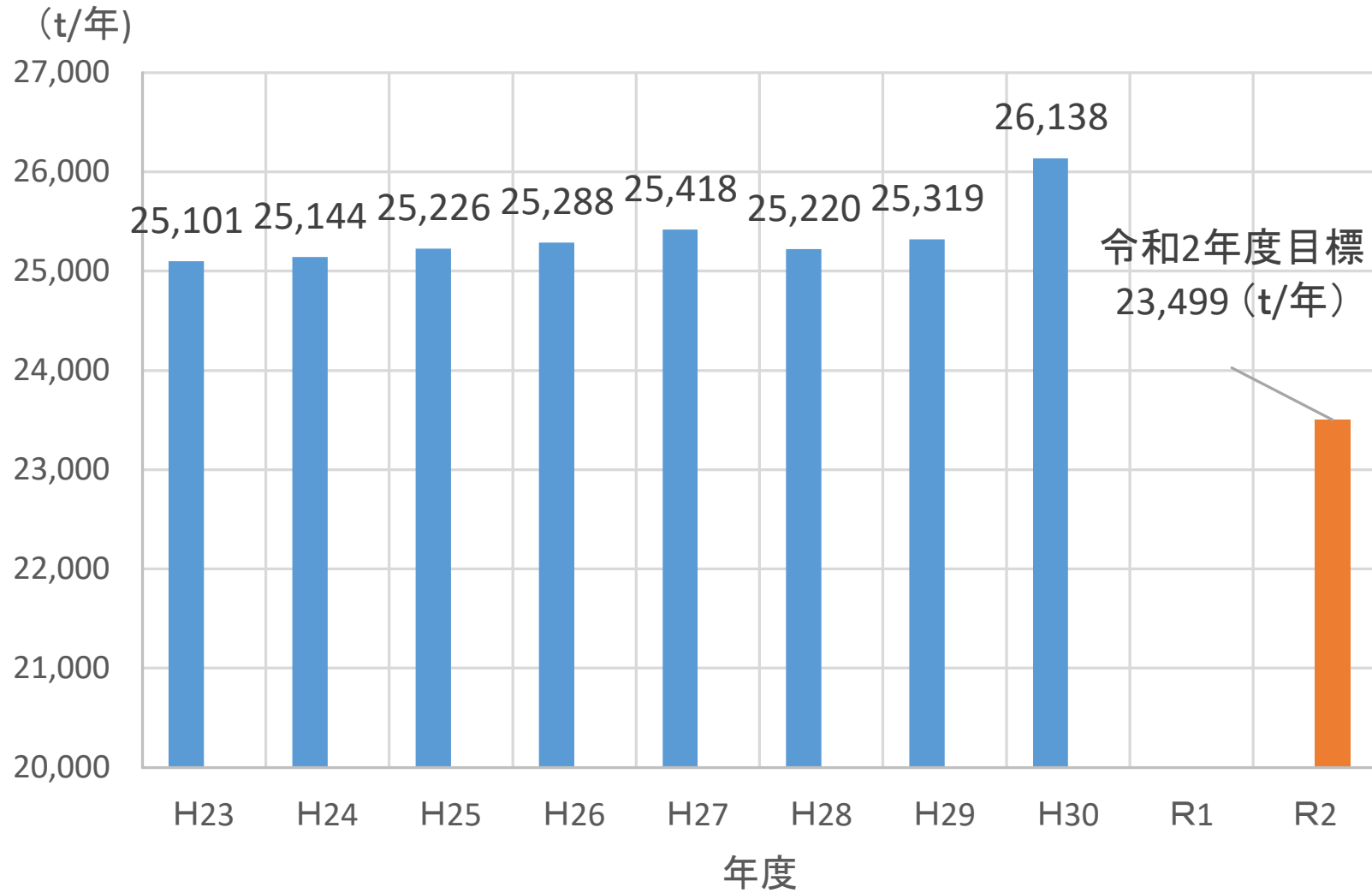
- 1人1日あたりのごみ排出量を800g/人/日に削減する



- 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量を611g/人/日に削減する



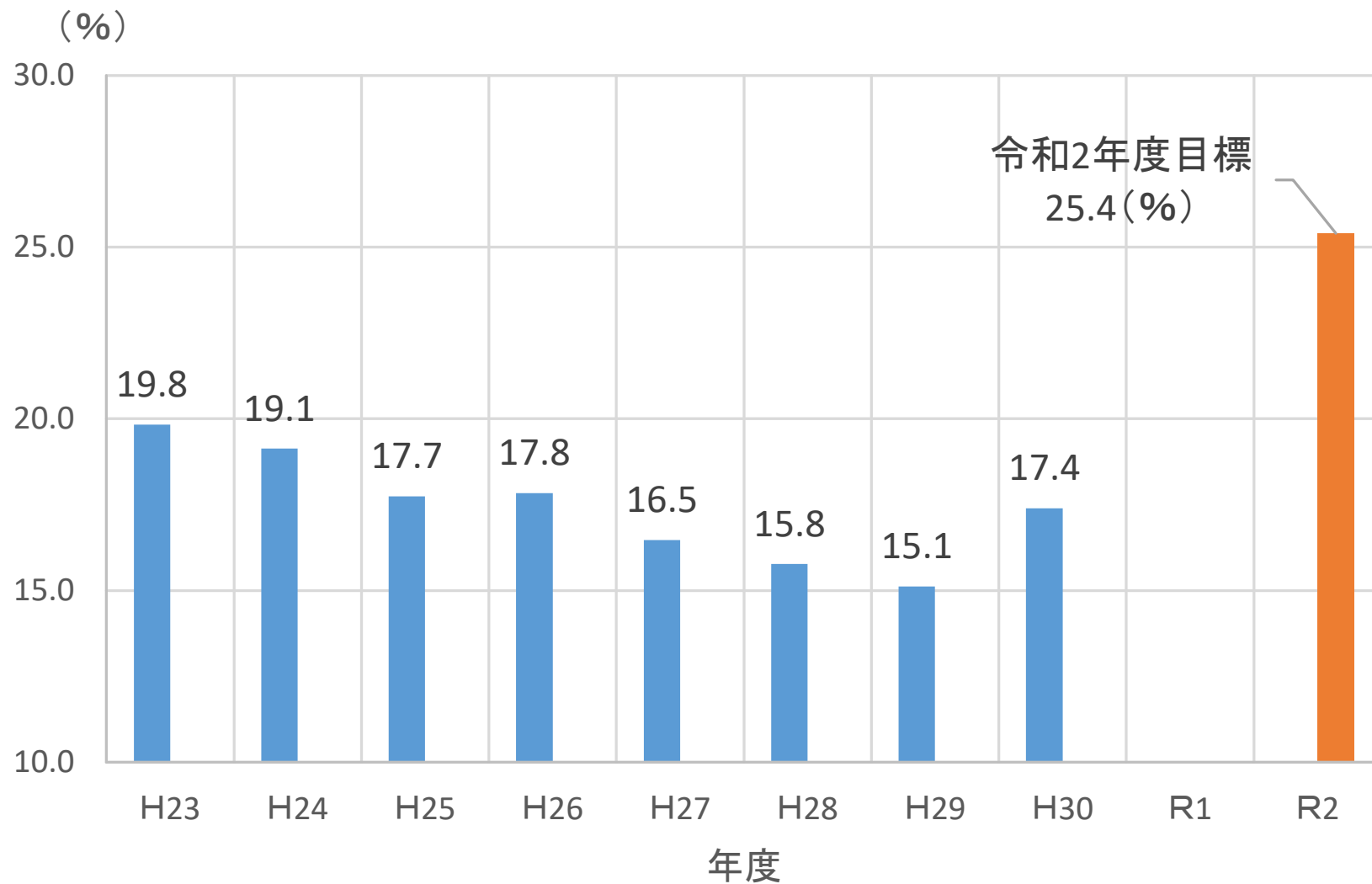
- 事業系ごみ排出量を23,499 t /年に削減する



4. 越谷市の現行計画の進捗状況

目標 2 再生利用の目標

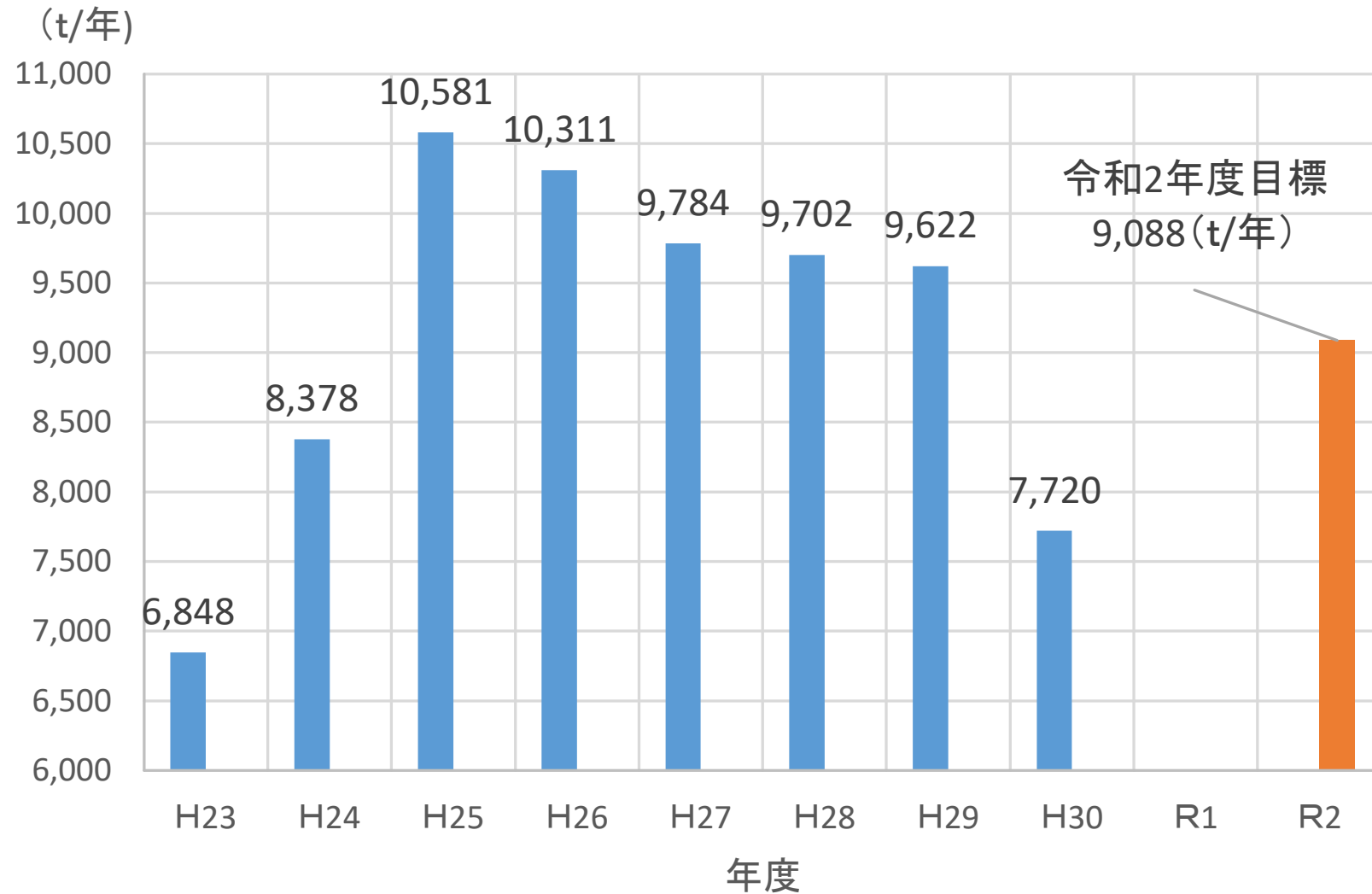
- ・ 分別の徹底により、リサイクル率を25.4%に引き上げる



4. 越谷市の現行計画の進捗状況

目標 3 最終処分量の削減目標

- 最終処分量を9,088 t /年に削減する



越谷市の現計画の施策体系

施策の基本方向	施策
1 普及啓発、環境学習の推進	1-1 ごみ減量・リサイクル情報の充実
	2-1 市民による減量・リサイクルの推進
2 参加と協働による取り組み	2-2 事業者による減量・リサイクルの推進
	2-3 行政による減量・リサイクル推進体制の充実
	3-1 分別の徹底
3 分別収集の推進	3-2 排出・収集方法等の検討
	4-1 ごみ処理に係る費用負担の検討
4 費用負担の検討	5-1 資源化の徹底
5 処理処分施設の整備	5-2 環境に配慮した処理システムの整備
	5-3 広域のごみ処理体制の確立
	6-1 地域美化の推進
6 地域環境の整備	6-2 不法投棄の防止
	7-1 災害時の廃棄物対策
7 災害対策	

現行計画における目標未達成の項目

目標 1 ごみ排出量の削減目標（平成32年度）

～事業系ごみ排出量を23,499t/年に削減する～

平成30年度の実績 26,138t/年

○現行の計画で未実施や進捗が十分でない事業

2-2 事業者による減量・リサイクルの推進

- ・ 過剰包装の自粛
- ・ 減量化計画書等の作成

現行計画における目標未達成の項目

目標2 再生利用の目標（平成32年度）

～分別の徹底により、リサイクル率を25.4%に引き上げる～

平成30年度の実績 17.4%

○現行の計画で未実施や進捗が十分でない事業

2-1 市民による減量・リサイクルの推進

- ・ 集団資源回収活動の促進
- ・ 民間リサイクルルートを活用促進

3-1 分別の徹底

- ・ その他プラスチック製容器包装リサイクルの検討

事業系ごみの増加要因

要因 1 活発な経済活動による排出量の増加

要因 2 住民の生活スタイルの変化

出典：「平成31年度東埼玉資源環境組合運営方針」

他市での事業系ごみの減量施策

- ◆ 中小規模事業者の排出抑制・資源化の促進
 - ・ 行政による資源化ルートを紹介
 - ・ 事業系ごみの適正処理マニュアルの作成
 - ・ 業種別の減量化・資源化事例を紹介

リサイクル率が向上しない要因

要因 1

焼却灰及び溶融スラグなどを土木資材の利用やセメント原料化などのマテリアルリサイクルを一部しか行っていない

要因 2

容器包装プラスチックの資源化施設を所有していないため、プラスチック類のリサイクルをしていない

マテリアルリサイクル、プラスチック類リサイクル以外の 他市でのリサイクル推進施策

◆ 集団資源回収の活性化

- ・ 累進型奨励金制度による活性化（群馬県桐生市）
- ・ 加算金制度による活性化（静岡県浜松市）
- ・ 行政回収に代わる集団資源回収（埼玉県所沢市）

5. 市が実施している施策

5. 市が実施している減量に関する施策

食品ロス削減の啓発

食品ロス削減に向けたこれまでの啓発の一例

市民に対し、ポケットティッシュやごみカレンダーなどで料理の食べきり、冷蔵庫の中身のチェックなど食品ロス削減に関する具体例を掲載し市民への啓発を図っています。

宴会のラスト15分は食べきりタイム!残さず食べ切ろう!

宴会!食べきり
いちごタウン
こしがやの

食べきり15タイム

超谷特別市民
ガーヤちゃん

宴会では、家庭での夕食と比較し、一人1食当たり約4倍の食品ロスが発生しています。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられる食べ物です。日本では年間で約600万トンも発生しています。一人ひとりの心がけで、食品ロスを減らすことができます。食品ロス削減にご協力をお願いします。

越谷市は、ごみの減量、食品ロスの削減に取り組んでいます。
越谷市リサイクルプラザ 減量リサイクル推進担当 電話:048-976-5371

○食べきりタイムの啓発 ←ポケットティッシュ配布

○食品ロスをなくす三ヶ条、食品ロス削減月間の周知

**家庭での食品ロスをなくす
三ヶ条**

一、食材を買いすぎない
二、食材を上手に使い、食べきる
三、賞味期限を過ぎても
すぐに食材を捨てない

超谷特別市民
ガーヤちゃん

【問合せ】 越谷市役所 リサイクルプラザ 減量リサイクル推進担当
電話:048-976-5371 休館日:月曜日、祝日、年末年始

10月は食品ロス削減月間です

全国おいしい食べきり運動
ネットワーク協議会
全国キャンペーン

食べ物を無駄にするのは、もったいない!
食品ロスを減らすために、一人ひとりができることから始めましょう!

**おいしく
楽しく
食べきろう!!**

問い合わせ先
越谷市環境経済部リサイクルプラザ
〒343-0803 越谷市砂原 355
TEL:048-976-5371 FAX:048-976-5372
http://www.city.koshigaya.saitama.jp/
全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会
http://info.pref.fukui.lg.jp/junkan/tabekiri/network/
全国食べきりネットワーク 検索

超谷特別市民
ガーヤちゃん

「越谷市」は「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」に参加しています

○ごみカレンダー での啓発 10月30日の「食品ロス削減の日」に 合わせ、啓発

平成31年(2019年) 10月 OCTOBER 第1地区

ごみは収集日の朝8時までに出してください。
ごみの分別方法は、「家庭ごみの分け方・出し方」をご覧ください。

日 Sun	月	Mon	火	Tue	水	Wed	木	Thu	金	Fri	土	Sat
			1	燃えないごみ 古紙類	2		3	燃えるごみ	4	缶	5	
6	7	燃えるごみ	8	ペットボトル	9		10	燃えるごみ	11	びん 古紙類(ふるぎ) 白色トレイ 危険ごみ	12	
13	14	燃えるごみ	15	燃えないごみ 古紙類	16		17	燃えるごみ	18	缶	19	
20	21	燃えるごみ	22	ペットボトル	23		24	燃えるごみ	25	びん 古紙類(ふるぎ) 白色トレイ 危険ごみ	26	
27	28	燃えるごみ	29	燃えないごみ 古紙類	30		31	燃えるごみ	今月は 市民税 3期 国民健康保険税 5期 の納期です 収納課 ☎963-9141			

～10月30日は「食品ロス削減の日」です～
食材の使い切り、料理の食べきり、冷蔵庫の中身のチェックなど、食品ロスの削減にご協力ください。食品ロスについてのお問い合わせ先 **048-976-5371**
電話番号の掛け間違いにご注意ください。

エコ・クッキング教室（市内企業との協働）

自治体職員向け 食品ロス削減のための取組マニュアル

令和元年度 更新版

第4次循環型社会形成推進基本計画において、2030年度までに家庭からの食品ロスを半減するとの目標が掲げられる等、食品ロスの削減は喫緊の課題です。

全国の自治体で食品ロスの削減に向けた取組が進められていますが、更なる取組の推進の際に参考になるよう、先進的な取組事例の実施の流れ・ポイントを取りまとめました。

主な発生場所

取組の内容

発生場所	取組の内容	ページ
家庭 で主に発生 (取組 No.1~3)	No.1 「エコ・クッキング教室の実施」(埼玉県越谷市) 民間の料理教室の協力のもと、家庭での調理時の食品ロスを削減するための啓発を実施	P.1~2
	No.2 小学生向けエコなお買い物体験授業の実施(東京都世田谷区) 環境にやさしい商品を購入する体験授業を小売店で実施	P.3~4
	No.3 「冷蔵庫10・30運動」の実施(神奈川県横浜市) 家庭での保管時の食品ロスを削減するための啓発を実施	P.5~6
飲食店 で主に発生 (取組No.4~9)	No.4 飲食店における「食べきり割」の実施(静岡県) 飲食店と連携し、食事を完了した来店客に割引を実施	P.7~8
	No.5 飲食店向け「トギーバッグ使用ガイド」の作成(滋賀県大津市) 適切な食べ残しの持ち帰り方法の周知	P.9~10
	No.6 協力店における「お持ち帰り用パック」の配布(富山県富山市) 「おいしいとやま食べきり運動」協力店を通じ、市オリジナルの持ち帰り用パックを配布	P.11~12
事業者全般で発生 (取組No.10)	No.7 「残さず食べよう！」推進事業所認定制度(長野県松本市) 自社の宴会などで食品ロス削減の取組を行う事業者を認定	P.13~14
	No.8 「おいしいふくい食べきり実践企業」登録制度(福井県) 食べ残しを防ぐ注文シートを用いた適量注文企業の登録	P.15~16
	No.9 ホテルにおける食品ロス削減メニュー開発(福井県) ホテル事業者と共に食べ残しの少ないメニューを開発	P.17~18
	No.10 事業者向け講習会を活用した周知・啓発(神奈川県相模原市) 食品関連事業者に対する確実な情報発信	P.19~20
メーカー・小売店 で主に発生 (取組No.11~13)	No.11 環境フェアにおける「もったいない市」の開催(三重県) 県内の食品メーカー等が規格外品を低価格で販売	P.21~22
	No.12 「食品ロス/バイバイキャンペーン」の実施(兵庫県神戸市) 小売店と連携し、販売期限切れによる食品ロスを削減するための啓発を実施	P.23~24
	No.13 フードバンク活動の普及・促進のための支援事業の実施(福岡県) 実態把握調査・モデル事業の結果を踏まえ、継続的なフードバンク活動の環境を整備	P.25~26

環境省

平成30年10月作成（令和元年10月更新）

No.1 「エコ・クッキング教室」の実施

埼玉県越谷市 -民間の料理教室の協力のもと、家庭での調理時の食品ロスを削減するための啓発を実施-

1 取組の概要

料理教室にゲーム（食品ごみの量を減らす競争）の要素を取り入れることで、食材の使いきり、残りもののアレンジについて楽しく学ぶ機会を提供する取組

■ 実施内容

市内にある料理教室の協力を仰ぎ、食材を残さず使いきる、残りものをアレンジした料理を作ることを念頭に料理教室を開催した。各班に分かれ、ごみ（調理くず）など排出量を記録して競い合い、食材の使いきりを意識してもらった。

平成30年度は、計2回開催しており、第1回は18歳以上の方を対象に、第2回は親子（子供は小学生）を対象とした。

第1回（参加者23人、6班 1班4人）

献立：イタリアンミートボール、グリル野菜のマリネ、ペジプロスを使ったイタリアンスープ、コーヒー風味のパンノッコ

第2回（参加者24人（12組：親子2人で1組）、1班 親子2組4人）

献立：エコ・お好み焼き、キャベツとのりのサラダ、フルーツ白玉



第1回エコ・クッキング教室の献立

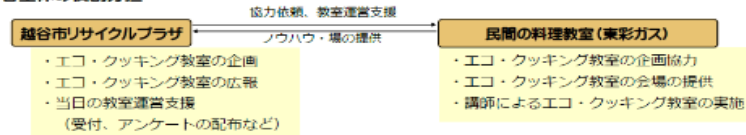


エコ・クッキング教室 開催の様子

■ 取組のきっかけ

近年注目されている食品ロス削減の啓発の一環として、家庭での食品ロス削減を目的に、平成29年度から「食材を使いきり」「残りものをアレンジ」した料理教室を体験してもらい「エコ・クッキング教室」を開催している。

■ 各主体の役割分担



■ 取組の効果

エコ・クッキング教室で、ごみの排出量（調理くず）を記録していくと、ごみ排出量が一番少ない班と多い班では約3倍近くの差が確認され、食材の使いきりの意識づけにつながった。

また、エコ・クッキング教室の参加者に対し、開催後にアンケート調査を行ったところ、「子供がエコ・クッキング教室を体験したことで食品ロスが減るかもしれない」との意見が出されるなど、子供に関心を持ってもらうことができたと感じている。

■ 今後の展開（令和元年度時点の想定）

エコ・クッキング教室の参加者へのアンケート調査項目『よく出してしまう「手つかず食品」は』の問いに対し、「野菜、果物」という結果が多く出ている。そのため、手つかず食品の「野菜・果物」に対する食品ロス削減の啓発をどのように行っていくかが今後の課題である。

フードドライブ事業

食品ロスの削減や未利用食品の有効利用を目的として、平成31年3月からリサイクルプラザに食品回収ボックスを設置集まった食品は市内の子ども食堂に提供



品 名		合 計	
		個数 (個)	重さ (kg)
1	缶詰 (果物)	71	23.979
	缶詰 (野菜)	11	4.815
	缶詰 (水産)	40	4.435
	缶詰 (食肉)	14	1.740
2	インスタント食品 (カップ麺など)	120	28.685
3	レトルト食品	67	36.008
4	乾物 (うどん・蕎麦・パスタなど)	112	32.639
5	飲料 (お茶パック・コーヒーパックなど)	81	28.905
6	菓子	26	5.186
7	食用油	17	6.200
8	調味料 (醤油・砂糖・塩など)	90	30.190
9	ミルク	20	4.874
10	その他 (米・シリアル類など)	13	3.070
合 計		682	210.726
受付件数		50	

(平成31年 (2019年) 3月～令和2年 (2020年) 1月末回収実績)

5. 市が実施している減量に関する施策

越谷市役所プラスチック・スマート宣言

越谷市役所プラスチック・スマート宣言

近年の海洋プラスチックごみ問題を受け、令和元年8月29日に、プラスチックごみの一層の削減に向け、市が率先して取り組むことで、市民のさらなる取り組みにつなげることを目的に「越谷市役所プラスチック・スマート宣言」を発表

○具体的な取り組み例

- ・マイバッグを進んで使う
- ・ペットボトルの使用を減らす
- ・プラスチック製品の使用は控える
- ・繰り返し使えるものを選ぶ

越谷市役所プラスチック・スマート
 私たち職員一人ひとりの取り組み

<p>会議やイベントで、ペットボトル飲料の提供は原則として行わない。</p>	<p>マイカップ、マイボトルを常備する</p>
<p>マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない</p>	<p>プラスチック製のカップ・ストローの使用は控える</p>
<p>イベントで、参加者と協力し、ワンウェイプラスチックの使用抑制に努める 配布物は繰り返し使えるものにする</p>	<p>お店でプラスチック製スプーンやフォークなどをもらわない</p>

プラスチックは木や紙類と違い自然界で分解しません。正しく分別・処理すること、プラスチックのごみを出来る限り出さないことが大切です。

プラスチックごみの減量と分別にご協力ください。

環境経済部 リサイクルプラザ ☎ 978-6371



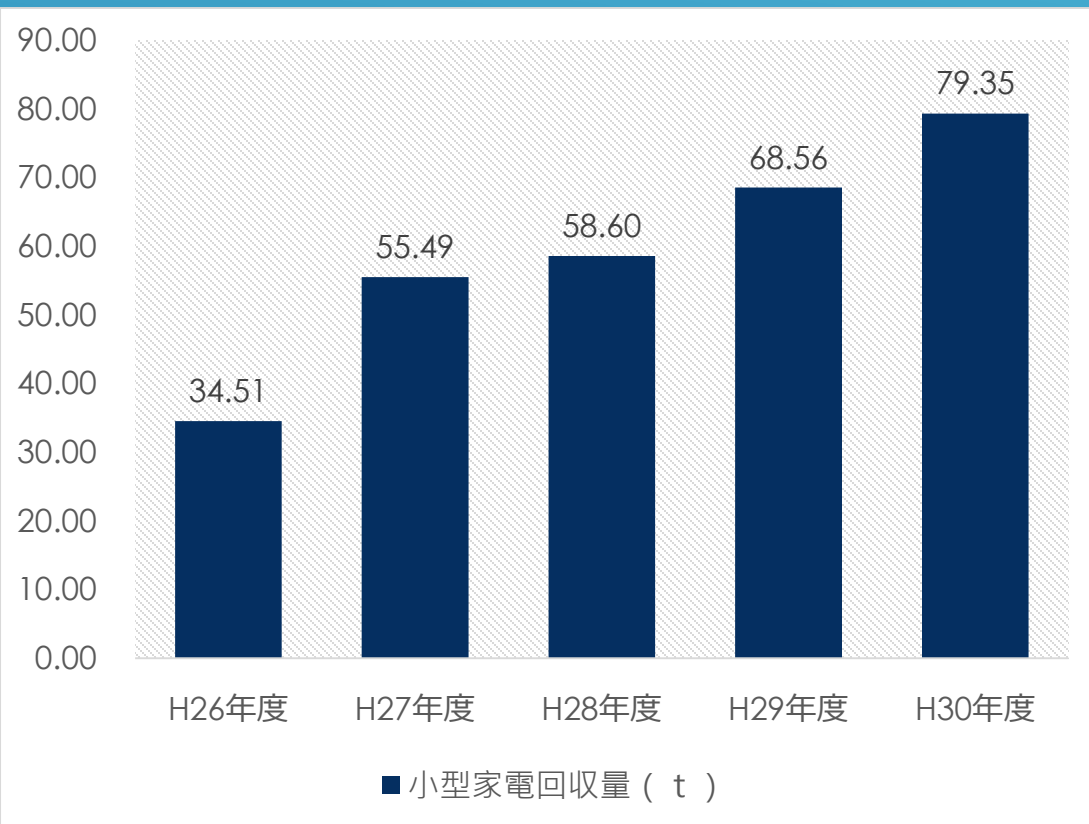
5. 市が実施している資源化に関する施策

使用済み小型家電の回収

使用済み小型家電の回収

平成25年4月に小型電子機器に含まれる貴金属や、レアメタルといわれる有用金属の再資源化を促進するため、小型家電リサイクル法が施行され、市では平成26年度より小型家電の回収を開始し、平成29年度7月には「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加し、簡易型の回収ボックスを増設するなど回収促進に努めた。

単位：kg



	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (1月末)
携帯電話	325	90	119	195	340	201
ノート型PC	846	1,177	1,315	2,198	2,651	1,862
高品位 小型家電	991	1,396	2,416	2,935	1,915	1,099
低品位 小型家電	31,187	51,580	53,270	61,640	72,450	56,050
AC アダプター	1,165	1,247	1,480	1,592	1,994	1,528
合計	34,514	55,490	58,600	68,560	79,350	60,740

小型家電回収に関する問題点

平成30年度は引渡価格が下落傾向であるものの売り払いとして成り立っていたが、今年度からは低品位の品目が逆有償となり、処理委託として支出が必要となってしまった。資源として回収量を増やしたい一方で、回収量が増えれば処理費が嵩むこととなり、悩ましい状況となっている。

単価：円／10kg

	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
携帯電話	800	800	400	400	400	400	400	0	0	0	200	200
ノート型PC	40	35	35	25	20	20	35	35	35	35	35	35
高品位小型家電	40	35	20	15	10	10	20	20	20	10	5	5
低品位小型家電	9.5	4.5	1	0.1	0.1	0.1	1	1	1	1	-15	-15
ACアダプター	35	35	20	15	10	10	20	20	20	1	-15	-15

5. 市が実施している収集に関する施策

ふれあい収集事業

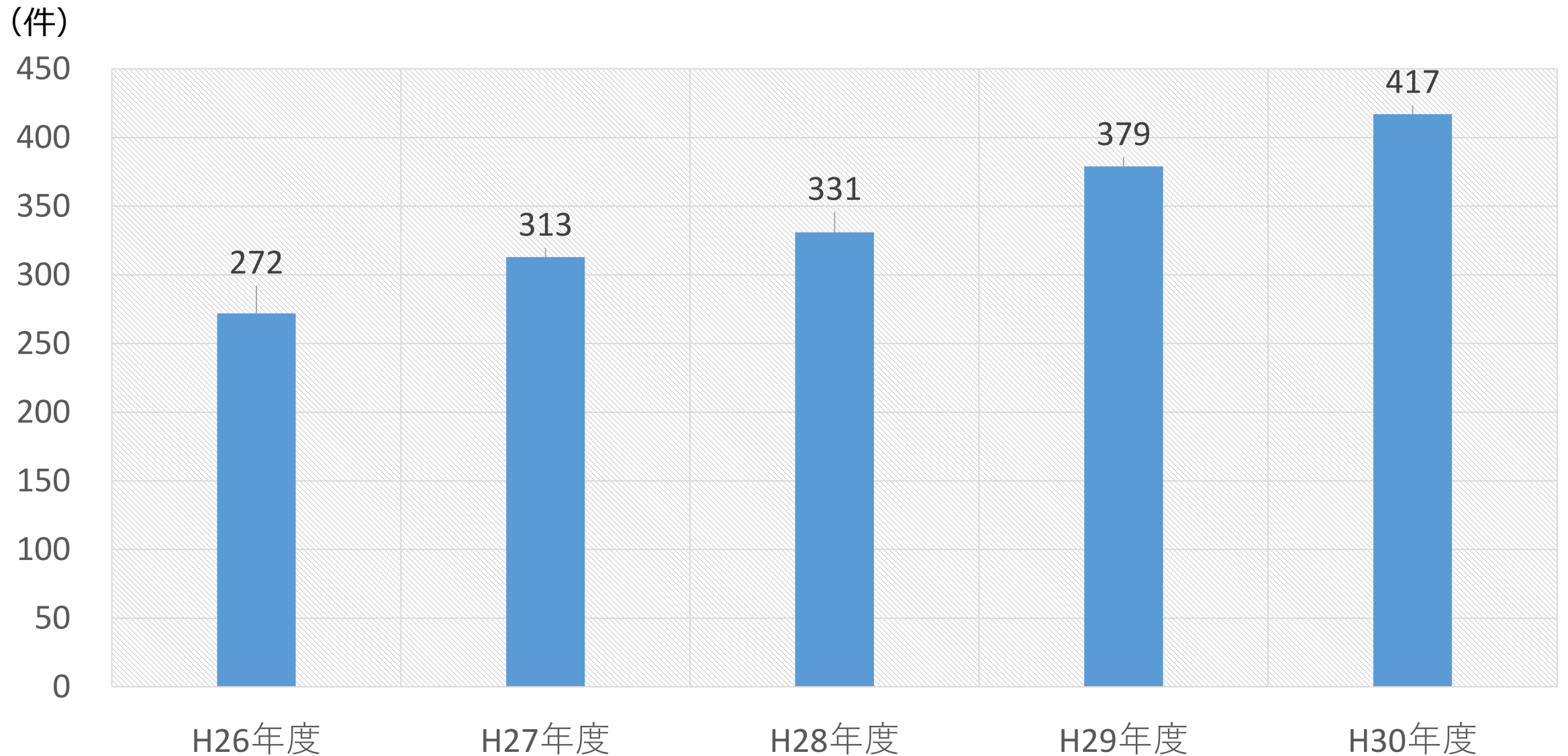
○制度の概要

ごみを集積所まで持ち出すことが困難な方で、身近な人の協力が得られない「65歳以上の高齢者のみで構成される世帯」、「障害を有する者のみで構成される世帯」、「その他市長が必要と認める世帯」を対象に、市職員が戸別収集を実施する

- ・ 週に1回、対象者宅から回収する
- ・ 可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ等を玄関先から回収
(家屋内からの回収は行わない)
- ・ 回収の際には対象者に声掛けを行う

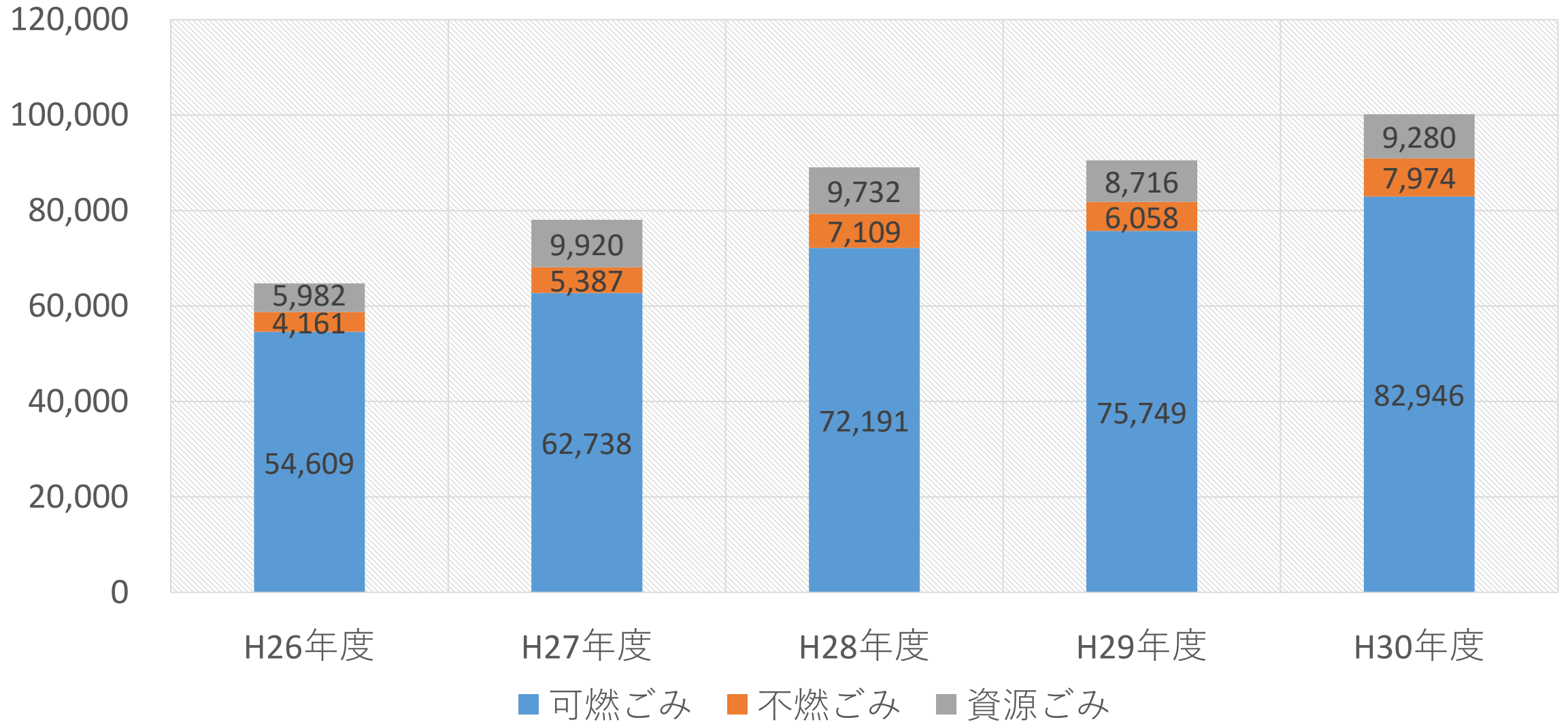
※ふれあい収集へのニーズの多様化に対応するため、「65歳以上の一人暮らしの世帯」から「65歳以上の高齢者のみの世帯」に要綱改正し対象を広げた。

ふれあい収集 対象件数



ふれあい収集実績

(収集量/ k g)



ふれあい収集における課題

- ▶ 安否確認に時間がかかる・・・収集時に連絡なく留守など
- ▶ 業務の拡大・・・粗大ごみの持ち出しなど
- ▶ 対象者の拡大・・・かご出しやごみ当番が負担となっている高齢者など
- ▶ 対象者が増えた場合の収集体制